

一 前橋市文化協会

令和四年度ふれあい体験日本舞踊教室

坂東流 紫会
直派若柳流 美登利会

二 清元 若柳三番叟

若柳 糸玖

作詞小島二朗。作曲清元梅吉。昭和初期に若柳流の三番叟として作られたものです。

「花清の春の朝がすみ…」と翁を舞い、「露にみだるる芽柳の…」と千歳を踊ります。続いて鈴の段と揉みの段の三番叟を踊り、「姿うつして若柳の喜び深き川沿い柳…かざしかざして舞納む」と流派の繁栄を祝う曲となっています。

三 長唄 吾妻八景

若柳 茂彩

この作品は、歌舞伎音楽から脱し、独立した演奏音楽として作られたという点に特色があります。

日本橋の曙に始まり、御殿山の桜、続いて、高輪、駿河台、浅草、隅田川、吉原、上野不忍池、と、江戸の四季折々の景物を綴っています。名曲であり、後に独舞から群舞まで、数々の振付がなされました。

今回は、本調子に始まる日本橋あたりと、吉原や、弁財天を祀る不忍池を描いた部分によって、品のよい小品にまとめました。

作詞 不詳
作曲 四世杵屋六三郎
文政十二年(一八二九)四月開曲

四 清元 玉兔

立方 坂東 仙竜

「玉兔月影勝」(たまうさぎつきのかげかつ)

二世桜田治助作詞。清沢万吉作曲。文政三年(一八二〇)九月江戸中村座演。振付四代藤間勘兵

衛。三代市山七十郎(三世 坂東三津五郎演)。「月雪花名残文台」という雪月花七変化のうち月の部の一つ。平家掛りの置から二上りで兔がとび出す、軽快な節で影勝団子の所作。本調子で狸と立廻る復讐の物語りで、極めて飄逸な踊りです。

五 常磐津 あやめ売

若柳 紀久茂

風薫る初夏の街に、「あやめ買わぬか、花あやめ。」と、あやめ売りがやって来ます。

端午の節句を飾る菖蒲、悪鬼を払う鐘馗、恋の闇路。粋なあやめ売りの踊りです。

六 常磐津 菊の栄

西川 扇紫珠

此の曲は新曲にて詞は常磐津菊三郎の婚礼の節に御夫人が持参せし御祝いの唄。

曲は菊三郎師常磐津芸歴五十周年記念大会に発表した曲で重ね重ねのお目出度い曲です。「波も静かに風もなく四海に薫る菊の花、治まる御代を尊ぎて」と菊の御紋に日本国そして世界が豊かな心で日々が送れます様にと菊の花…に思いを託して踊り始めます。

七 長唄 新曲浦島

立方 坂東 仙紫郎

海の情景が主であり、浦島は登場していない。静かな大海原や漁火の情景に始まり、岩に碎ける波の様、帰りを急ぐ舟人の舟歌、そしてまた勇壮な海の描写で終わるといった内容となっています。